

ターミナル駅利便性向上指針(素案) について

ターミナル駅利便性向上指針(素案)

- ◇ 各ターミナル駅における検討手順を示すとともに、ターミナル駅間での案内サインの統一感を確保するなど、案内サインに示された情報が利用者に同じように伝わるようにするため、特に留意すべき事項について取りまとめたものである。

○ターミナル駅利便性向上指針

検討体制の構築（駅まち会議の設置）

本指針においては、各ターミナル駅ごとに地元区市等の主導により、対象範囲を決めた上で、駅に関する関係者が一堂に会して以下の3つの取組の課題を共有し調整を図るなど、取組を継続していくための体制を構築することとする。

⇒将来的には、駅とまちのより強い連携に向けて、各種施策に取り組むことが望ましい。

案内サインの改善

- 検討する手順
- ターミナル駅における案内サイン共通化指針【多言語対応含む】・・・次頁

乗り換え動線のバリアフリーの推進

- 検討する手順

サービスの向上

- 参考取り組み事例

ターミナル駅における案内サイン共通化指針(素案)

①ターミナルの構造に適したサイン体系の構築

◇駅構造の把握

- 駅の構造を分析した上で、それに適したサイン体系を構築する

◇わかりやすい案内経路の設定

- 経路が複数ある場合、最もわかりやすい経路を案内すべき主動線として定める

②適切に配置

◇配置基準

- 事業者間でとぎれないよう連続的に配置する

◇商業広告

- 視認性を妨げないよう、重ならない箇所に設置する

③表記する内容を統一

◇表記内容

- 使用する名称は、多言語表記も含めて原則として統一する

◇多言語表記

- 英語併記を基本とする

◇ピクトグラム

- ピクトグラムを使用する
- 標準案内用図記号と「案内サイン標準化指針(東京都)」を原則とし、必要に応じて、各社の路線マークや駅ナンバリングなども活用する

④表現や外観の一貫性

◇文字

- 書体は、角ゴシック体を基本とする

◇色彩

- 明度差を大きくする
- 出口は黄色とする
- 事業者間での統一が望ましい

◇レイアウト

- 矢印、ピクトグラム、施設名の順を基本とする
- 図解サインの表示範囲は、エリアマップは約2km四方、ターミナルマップは約1km四方を目安とすることを基本とする